

レパートリーオーケストラ 2022 前期演奏会

2022年7月14日(木)18:30開演(18:00開場)

洗足学園 前田ホール

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い△

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

洗足学園音楽大学・大学院

洗足学園音楽大学レパートリーオーケストラ

本学には、4年生を中心としたマスターオーケストラ、1年生管弦打楽器履修生によるベーシックオーケストラ、そして2～3年生を中心としたレパートリーオーケストラ（弦楽器は本学所属演奏補助要員が担当）があり、様々な管弦楽作品の研究・演奏を行っている。これまでに秋山和慶特別教授、ウラディミール・アシュケナーズ名誉客員教授、クルト・マズア名誉客員教授らの世界的な重鎮に加え、小林研一郎、現田茂夫、山田和樹、井上道義など多くのベテラン・若手を織り交ぜた著名指揮者の客演を経て、その成果を発表している。



conductor

増井 信貴 *Masui Nobutaka*



桐朋学園大学指揮科卒業、同研究科修了。岡部守弘、斎藤秀雄、小澤征爾、秋山和慶、尾高忠明、F. フェラーラ、L. バーンスタインに師事。1978年タングルウッド音楽祭にスカラシップコンダクターとして参加。1982年パリ・オペラ座でオペラ上演に関わりつつ研鑽を積む。また1989年文化庁派遣在外研修員としてバイエルン国立歌劇場に留学し、ウォルフガング・サヴァリッシュ氏の助手として数多くのオペラ上演に参加した。1989年群馬交響楽団の指揮者に就任。1991年ウィーン木管アンサンブルと共演し、その様子はウィーンフィル創立

150周年記念ドキュメンタリー番組「ウィーンはいつまでもかわらない」にとりあげられ全世界で放送された。1997年11月、ロストロポーヴィチ指揮新日本フィル定期演奏会で、ブリテン「戦争レクイエム」の小オーケストラの指揮を務めた。また、1998年冬季長野オリンピック開会式での「第九」演奏においては、合唱とオーケストラをまとめる指揮者のひとりとして演奏に携わった。得意とするオペラではこれまでにドニゼッティ「イル・カンパネロ」の日本初演などを指揮。また、NHKテレビへの出演やサイトウ・キネン・オーケストラのヨーロッパ公演に副指揮者として参加するなど、シンフォニー、オペラの両面で精力的な活動を続けている。現在、京都市立芸術大学名誉教授、東京音楽大学指揮科主任教授、洗足学園音楽大学名誉教授。令和元年度「京都市芸術振興賞」受賞。

program

F.v. スッペ / 喜歌劇「軽騎兵」序曲

Franz von Suppé Leichte Kavallerie, Light Cavalry Overture

E. グリーグ / ペール・ギュント 組曲第1番 Op.46 より「朝」

Edvard Hagerup Grieg Peer Gynt Suite No.1 Morning

G. ビゼー / アルルの女 組曲第2番

Georges Bizet L'arlesienne Suite No. 2

I. Pastorale

II. Intermezzo

III. Minuetto

IV. Farandole

A. ハチャトリアン / バレエ音楽「ガイーン」組曲第1番より

Aram Il'ich Khachaturian Gayane Suite No.1

レスギンカ、バラの乙女たちの踊り、剣の舞

Lezghinka, Dance of the Rose Maidens, Saber Dance

-pause-

A. ドヴォルザーク / 交響曲第8番ト長調 Op.88

Antonín Dvořák Symphony No.8 in G Major, Op.88

I. Allegro con brio

II. Adagio

III. Allegretto grazioso - Molto vivace

IV. Allegro ma non troppo

J. ブラームス / ハンガリー舞曲第5番

Johannes Brahms Hungarian Dance No.5

program notes

E.v. スッペ／喜歌劇「軽騎兵」序曲

歌劇『軽騎兵』序曲はオーストリア出身の作曲家フランツ・フォン・スッペ (Franz von Suppé) により作曲された。スッペは 1860 年にウィーンにやってきたオッフエンバックに触発され最初のウィーン風オペレッタを作曲したため『ウィンナ・オペレッタの父』と讃えられている。

『軽騎兵』は 1866 年に作曲され、アン・デア・ウィーン劇場で初演された。軽騎兵とは鎧と盾で重装備した『重騎兵』に対して最小限の装備で足の速さを活かして後方錯乱や奇襲の役割を担った兵のことである。爽快で華やかなトランペットのファンファーレで始まり、ホルンを始めとする様々な楽器により繰り返されたのち、高弦楽器による騎兵の疾走、あるいは剣劇や戦場を連想させるスリリングな旋律へと情景は変化する。続いて馬特有の賑やかなギャロップのような行進曲が金管セクションにより演奏され、その後オーケストラ全体で軍隊が押し寄せて来るかのように奏でられる。その賑わいはクラリネットソロにより収束し、物悲しく疾走するようなメロディーへと移り変わる。そこから一転して行進曲が再現されたのち、最後はギャロップの音楽がぐっと盛り上がり、再度ファンファーレが出てきて華やかに締めくくられる。軽騎兵が馬に乗って軽やかに駆け抜ける姿を聴いている方に思い浮かべて頂けるように演奏する。

吉井絵理果 (トランペット専攻 2 年)

E. グリーク／パール・ギュント 組曲第 1 番 Op.46 より「朝」

「朝」は、ノルウェーの作曲家エドヴァルド・グリークによる組曲「パールギュント」の一曲で、元々はノルウェーの劇作家ヘンリック・イブセンの戯曲「パールギュント」の劇音楽である。

さわやかな「朝」の音楽の舞台は意外にもモロッコの砂漠で、そのストーリーは全く想像できないものとなっている。自由奔放でホラ吹き「パールギュント」は一攫千金を夢見て世界を旅し、長旅を経て大金持ちになった。しかし彼がある朝目覚めると、宝は全て奪われ砂漠に 1 人取り残されていたのだ。そんな「朝」の場面に沿う音楽である。

山上智寛 (フルート専攻 3 年)

program notes

G. ビゼー / アルルの女 組曲 第2番

「アルルの女」はビゼーの作品の中で有名な曲の一つである。この曲は19世紀のフランスの作家ドーデの短編集をもとにしたもので、物語は作者が南フランスのアルルに近い村に滞在中に起こった悲劇から書かれた戯曲である。

裕福な農家に生まれた長男のフレデリはアルルで見かけた女に恋をするが、フレデリは地元の農家の娘であるヴィヴェッタとの婚約が進められている。フレデリはアルルの女のことを忘れ、ヴィヴェッタと結婚することを決意する。しかし、アルルの女の恋話を聞いたフレデリは再び恋に悩まされ、嫉妬し、ついにはその苦しみに耐えきれず、自ら命を絶ってしまうという物語である。この曲はビゼー自身が作曲した第1組曲とビゼーの死後友人のギローによって完成された第2組曲から成る。

1. パストラール

第2幕の導入曲と開幕後の合唱から成る。前半は緩やかなテンポで力強く演奏される。後半はフルートとクラリネットがプロヴァンスの太鼓に乗って軽やかに演奏し、合いの手としてピッコロとオーボエがはっきりと演奏し、再び最初の旋律に戻る。

2. 間奏曲

第2幕第2場の間奏曲に基づく。力強く重々しい曲想に続き、アルト・サクソフォンとホルンの穏やかで繊細な美しい旋律へと続く。再び最初の重々しい部分に戻り終止へ向かう。

3. メヌエット

誰もが1度は耳にしたことのある有名な曲である。

ビゼーの歌劇「美しきパースの娘」の曲をギローが編曲したこの曲は、フルートとハープを中心に少しずつ管楽器が加わり華やかな曲想となる。後半に出てくるサクソとの対話にも注目して聴いていただきたい。

4. ファランドール

第3幕第1場の終曲「ファランドール」に基づき第1組曲の前奏曲「3人の王の行進」と組み合わせられた形で書かれている。プロヴァンスの太鼓に乗って軽快かつ華やかなクライマックスを迎える。

program notes

A. ハチャトゥリアン / バレエ音楽「ガイーン」組曲第1番より

アラム・ハチャトゥリアン (1903-1978) は、グルジア (現在のジョージア) でアルメニア人の両親のもとに生まれる。18歳ごろからチェロと作曲、管弦楽法を学んだ。この曲はハチャトゥリアンの代表的な作品のひとつであり、彼がそれ以前に作曲していたバレエ「幸福」をもとに作られた。「ガイーン」という、アルメニア国境の山間で働く女性が、悪事をたくらむ夫を国境警備隊長に引き渡すというストーリーである。祖国アルメニアの民謡の旋律やリズムを用いて作られ、1942年にペルミ市、キーロフ記念レニングラード・オペラ・バレエ劇場にて初演された。本日は、第1番より「レズギンカ」「バラの乙女たちの踊り」「剣の舞」を演奏する。

《レズギンカ》

乾いた太鼓の響きで幕を開け、その上を木管楽器や弦楽器の速いパッセージが駆け巡っていく。金管楽器の響きも力強さも加わり、コーカサス地方のレズギン人による民族舞踏に相応しい、疾走感のある曲となっている。

《バラの乙女たちの踊り》

木管楽器による可愛らしい旋律と弦楽器のピッチカートが心地良く、軽やかな印象を与える。ミュートを付けたホルネットとチューバフォンによる対旋律が彩りを添え、続いて調子の変わる中間部、上行するコーダ、一貫して可憐さと朗らかさのある曲となっている。

《剣の舞》

ハチャトゥリアンの代名詞としても扱われるこの曲。クルド族の男性が剣を持って勇壮に踊る場面の曲である。激しい舞や剣の荒々しさが表情豊かに表現されている。火を吹くような金管楽器の音色、鋭いシロフォンの音色、飛び回るような木管のパッセージ。全てに、他の者を寄せ付けないような勢いがある。

小山 梓 (打楽器専攻3年)

program notes

A. ドヴォルザーク / 交響曲 第 8 番 ト長調 Op.88

この交響曲 8 番は次作である 9 番「新世界より」の次に有名な曲ではなかろうか。

曲の始まりは金管楽器によるト短調の序奏によって始まるが、この序奏は調性や形を変えて 1 楽章終盤まで何度も演奏され、終盤にはかなりの大盛り上がりも見せる。2 楽章はハ短調で始まり、終盤にはハ長調のファンファーレが盛大に鳴らされる一方、最後は弱奏になるなどかなり振れ幅が大きいのが特徴である。ここまでの楽章とは異なり 3 拍子で始まる。3 楽章はいきなりト長調のコーダに飛ばされほぼアタッカ（楽章間の隙間を開けないこと）で 4 楽章に突入する。

4 楽章はトランペットのファンファーレによって幕が開ける。ファンファーレの音形が後にかなりの回数の変奏になる。全部の種類は書ききれない為、皆様方で実際に聴いて数えていただきたい。

大津 泰（トランペット専攻 3 年）

J. ブラームス / ハンガリー舞曲 第 5 番

ハンガリー舞曲はヨハネス・ブラームスがハンガリーで生活をしていた移動型民族（ロマ）の音楽に基づいて 1869 年に編曲された。オーケストラでの演奏が広く知られているが、元はピアノ連弾のために作曲された 21 曲からなる曲集である。ブラームスがオーケストラ編曲を施したのは第 1 曲、第 3 曲、第 10 曲の 3 つであり、今回演奏する第 5 曲はマルティン・シュメリングによりオーケストレーションされた。一度は耳にする印象的なメロディーと、緩急のあるテンポ感が指揮者によって様々な表情を見せる。

直田真潮（ホルン専攻 3 年）

Repertory Orchestra Member

Flute	池田 徳羽子 中村 愛美	菊地 晃空 藤井 千尋	中川 花音	山上 智寛	鈴木 ぴあ乃	瀧本 ころこ
Oboe	網谷 由唯	入谷 栞	岸原 伶奈	橋本 あみか		
Clarinet	浦川 乃阿 薄井 萌々子	佐々木 音美 鈴木 潤	末光 はるか 高橋 美乃	トラングエン ゴックアン 松崎 稀菜	矢ヶ崎 貴史	
Bassoon	及川 夏海	渡邊 陽南	長谷川 舞花			
Saxophone	矢澤 亘 [♭]					
Horn	石野 奈々 高良 知里	種子田 佳歩 山田 日香流	直田 真潮	中野渡 真咲	山本 海音	植田 香帆
Trumpet	大津 泰 稲田 菜摘	五月女 啓太 江浦 蓉蓉	鈴木 ころこ 野村 日菜乃	トルグット ハヴィン 星野 花織	藤原 くるみ 吉井 絵理果	桃井 智穂 リン コウリャク
Trombone	宇賀那 晴臣	小野 航	鶴田 奈々	中津 愛梨	鶴飼 輝	川上 奏太郎 森田 堅人
Tuba	澤田 翔也	長谷川 夏帆	南迫 奏太			
Percussion	榎本 耀 宗像 桃子	江原 和紀 鏑木 舜裕	大塚 愛美 松田 有平	阿南 杏佳 吉田 創	熊谷 彩夏	小山 梓
Piano	松尾 沙衣 [♭]					
Harp	熊倉 実里 [*]					
Concertmistress	藤岡 瑞季 [*]					
Violin I	志村 瑠南 [*] 前田 明日香 [*]	松谷 萌江 [*] 小林 栞 [*]	鈴木 美智子 [*] 大江 沙耶 [*]	井上 千恵美 [*] 大谷 桜子 [*]	大槻 茉莉子 [*] 安藤 美陽 [*]	恒遠 磨帆 [*]
Violin II	松岡 野乃花 [*] 澤田 香萌 [*]	雨川 笑子 [*] 香田 早智 [*]	金子 都 [*] 佐藤 愉里子 [*]	腰高 多恵 [*] 大塚 樹里 [*]	菱田 あゆみ [*] 阿部 史歩 [*]	
Viola	竹田 楓子 [*] 後藤 悠太 [*]	門井 晴子 [*] 中野 綾子 [*]	栗國 朝陽 [*] 堀場 裕太 [*]	井上 葵 [*] 榎本 知香 [*]		
Violoncello	有梨 瑳理 [*]	奥平 華子 [*]	三原 香璃 [*]	飯田 莉奈 [*]	佐伯 江梨花 [*]	安藤 葉月 [*]
Contrabass	高野 響花 [*]	安田 廉 [*]	奥山 尋冬 [*]	本田 直也 [*]		

* 演奏補助要員

♭ 学生賛助

企画運営責任者 菅原 潤 (本学教授)

リハーサルピアニスト	皆川 純一	谷川 明				
指導教員	上野 正博 物集女 純子 佐藤 亮一 小林 利彰 水谷 上総 海野 匡代 尹 千浩 渡邊 功 山澤 洋之	松村 秀明 吉村 知子 田渕 哲也 近藤 千花子 吉田 將 神代 修 池上 亘 井手上 達 山田 徹	山脇 幸人 井野邊 大輔 辻 功 松本 健司 勝俣 泰 中山 隆崇 門脇 賀智志 幸西 秀彦 西川 麻里子	近藤 薫 藤村 俊介 山口 卓郎 石井 淳 小林 祐治 林 辰則 菅 貴登 中村 祐子	中 一乃 矢内 陽子 吉村 結実 宇賀神 広宜 久永 重明 古田 賢司 府川 雪野 野本 洋介	沼田 園子 森 圭吾 鎌田 浩志 鈴木 一志 森 雅彦 古田 俊博 次田 心平 松本 祐二

助手 中村 日向子 アカデミックコーディネーター 小坂橋 沙織